

広報 **きたもと**

7月
2018 No.965

特集面

きっと、もっと、きたも트가好きになる 旬な話題をお届け!

新しい事業で、もっとサポート!

★☆☆ **応援**します!!
あなたの**子育て**

日本一の子育て応援都市を目指して!

北本版ネウボラスタート!!

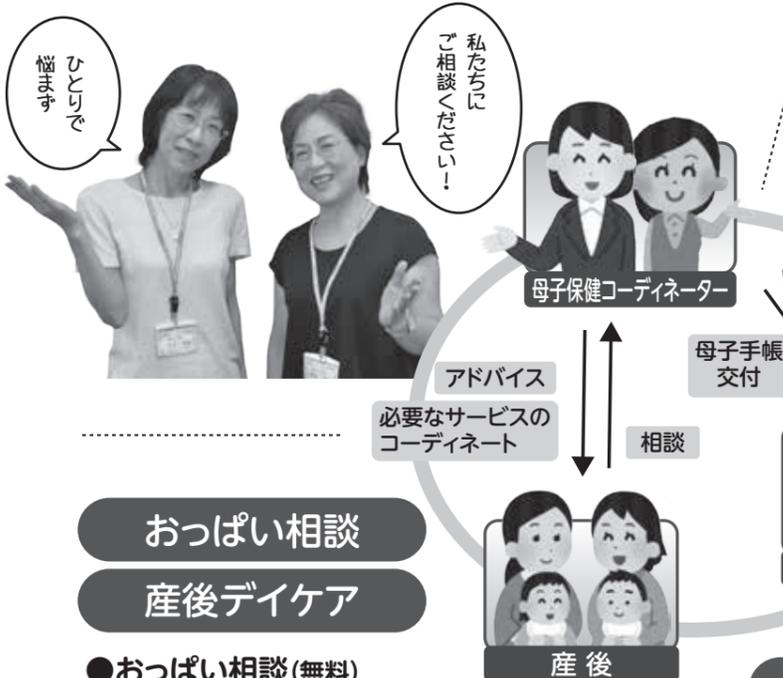
より
分かりやすく

より
便利に!

「子育て世代包括支援センター」 開設による4つの応援ポイント

母子保健コーディネーター

子育て世代包括支援センター内に母子保健コーディネーター
があり、様々な相談ごとを親身になって聴き、子育てを応援しま
す! 「ちょっと立ち寄っておしゃべりたいな」という時に顔が見
える関係で気軽に相談できますよ。



おっぱい相談

産後デイケア

●おっぱい相談(無料)

産後授乳が安心してできるよう、助産師が乳房の
ケアについて児童館授乳室でアドバイスします。

●産後デイケア(1回300円、減免制度あり)

妊婦さんが産後ゆったり過ごし育児に慣れるよ
う、助産師が赤ちゃんのお風呂の入れ方等の育児や
授乳に関する相談、産後の体調や生活に関する相談
を児童館集会室で行います。



ネウボラって何?

フィンランド語で「アドバイスの場」という意味で、約70年
前にフィンランドで発祥した
制度トマ。ネウボラナス(保
健師、助産師)がきめ細やか
に話を聴き、母親と子どもを
中心としながら家族全体を支
援する仕組みのことトマ。



妊娠届時の全員面接・電話相談

妊娠し、母子健康手帳を交付される全
ての妊婦さんにアンケートや電話での
お声がけを行い、母子保健コーディネーター
や保健師等が妊娠期の不安や悩みを直接
聴き、一緒に考えます。



状況に応じて

支援プラン作成

妊婦さんと母子保健コーディネーターとの対話の
中で、安心して子育てできるよう、状況に応じて支
援プランを作成し、妊婦さんをはじめとしたご家庭
に適した支援を行います。



新しい事業で、もっとサポート!

応援します!! あなたの子育て

日本一の子育て応援都市を目指して!



子育て支援の総合窓口
子育て世代包括支援センター
7月1日開設!(市役所庁舎内)

妊娠期は、家族が増える喜びや期
待が膨らむ一方で、女性にとっては、
体調の変化、出産や育児への不安を
感じることもあるでしょう。家族に
とつても、赤ちゃんを迎える嬉しさと
同時に、家族の関係が大きく変わる
ことになり、それぞれが、その変化に
慣れていく必要があります。
これまでも市では、市民の皆さんの
子育てを応援するために、各課で様々
な子育て支援事業を行ってきまし
たが、今回、妊娠、出産、子育て期
の総合窓口として、市役所健康づくり課
内に「子育て世代包括支援センター」
を開設しました。専任の「母子保健コ
ーディネーター」が、妊娠期から子育
て期までの相談に応じ、必要なサ
ービスをご案内します。市民の皆さん
が、より安心して子育てできるよう、
体制を整えていきますので、ぜひお
気軽にご利用ください。



「市は、赤ちゃんの誕生を喜び、その成長を楽しみにしながら、皆さん一人ひとりの子育てを応援していきます。」



福祉部長 三橋 浩範 健康推進部長 赤沼 知真

福祉部長 健康推進部長から **メッセージ**

三橋 市民の皆さんが、妊娠中から子育てまでの相談をしたい場合、「福祉部こども課」か「健康推進部健康づくり課」へ来ていました。同じフロアなので、今までも必要に応じて案内していましたが、今後は「母子保健コーディネーター」が受けることで、市民がどこに相談したらいいかわからなくて済むようになります。

赤沼 市民にとっては「こども課」も「健康づくり課」もないですね。その時「どこへ行くか」ではなく、「どんなサービスを受けたいか」が肝心ですね。

三橋 担当課も努力はしているけれど、福祉サービスって、残念ながらわかりにくいものも多いんです…。

赤沼 今後は母子保健コーディネーターが相談を受ける中で、その人、その家族に必要な支援が何かを話し合っ、よりよい育児ができるよう、一緒に考えていくことができますよ。

三橋 市としても、市民の皆さんと直接ふれあうことで今どきの子育て事情が分かってくるので、それを活かして、よりきめ細かなサービスへと繋げることもできるんじゃないかな。

赤沼 そうなんです。そして妊娠中、子育て中の家族を市役所だけではなく、市民一人ひとりが見守り、応援していくようなまちにしていきたいですね。

■子育て世代包括支援センターに関する問合せ

☎511-0109(直通)

【開設日】平日8:30~17:15(土・日曜日、祝日、年末年始を除く)

■支援内容に関する問合せ

健康づくり課(☎594-5544) / こども課(☎594-5537)



北本版ネウボラのしくみ



結婚・妊娠

出産

子育て期

子育て世代包括 支援センターがサービスや相談先をコーディネート!!

支援内容

経済的なサポート

早期不妊検査費・不育症検査費助成
不妊治療費助成

妊婦健診
公費助成

0歳児おむつ無料化
多子出産祝金
多子世帯応援給付金

こども医療費
児童手当

健康管理のサポート

妊娠届
母子手帳の交付

妊娠届時の
全員面接

妊娠後期
電話サポート

妊婦健診・訪問

予防接種(定期・任意)

産後 ママのこころケア



乳幼児健診(0~3歳)

乳幼児育児相談(0~3歳未満)・子どもの相談

育児のサポート



おっぱい相談

マタニティセミナー

パパのための
お風呂の講習会

産後デイケア

離乳食教室

赤ちゃん訪問



母子保健コーディネーターの配置

継続訪問支援(保健師等)

産前・産後ヘルパー派遣(有料)(3歳まで)

ファミリー・サポート・センター(6か月~)

地域子育て支援拠点 ※詳しくは20ページをご覧ください。

一時保育、保育所(園)、認定こども園

病児保育・病後児保育(1歳~小学3年生まで)

学童保育



主な支援内容の概要

早期不妊検査費助成

不妊検査開始時の妻の年齢が43歳未満の夫婦で、対象検査に係る費用の中で、1回の不妊検査に限り2万円を限度として助成します。

不育症検査費助成

不妊検査費に加えて4月から新たに不育症検査費の助成を開始しました。1回の不育症検査に限り2万円を限度として助成します。

不妊治療費助成

不妊治療開始時の妻の年齢43歳未満の夫婦で、埼玉県不妊治療費助成事業の制度利用者に1回の不妊治療につき5万円を限度として助成します。

0歳児おむつ無料化

子育て中の家庭の経済的な負担を軽減し、子育て支援の一層の充実を図るため、0歳児のおむつを無料で交換できるクーポン券を配布します。

多子出産祝金・多子世帯応援給付金

多子世帯の経済的負担の軽減のため、第3子以降のお子さんが産まれた保護者などに、5万円の出産祝金を助成します。また、県補助金を活用し多子世帯応援給付金2万5千円を上乗せして助成します。
※対象者には要件があります。

こども医療費

平成30年10月より、対象が満18歳の年度末までのお子さんに拡大し、医療機関で診療を受けた際の保険診療の自己負担分を助成します。